

かわさきTMO通信

＜毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2015年1月号 No.57

- かわさきTMOからの提言
- 「羊」年を迎えて
- 成熟社会の経済
- 事務局便り

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2015年1月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sasahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

◇かわさきTMOからの提言



明けましておめでとうございます。新年ですので、すこし明るい夢を見ようかと思えます。TMOの中に提言部会（部会長・戸村正房）があります。この部会で、これまでのTMOの活動を含めて、将来の川崎駅周辺地区の姿を提言する作業が進んでおり、近々「提言書」がまとまる予定です。ここで、議論されている内容をすこし、ご紹介しようかと思えます。

提言書は、「明日の川崎 ACE戦略—川崎駅周辺地区商業活性化戦略—」となっております。三つのキーワードA・C・Eでまとめられています。「A」は、ACCESS（アクセス）です。交通の利便性から誰にとっても親しみ近づきやすい街づくりをめざすものです。中心市街地回遊バス（ワン

コインバス）、川崎発の電気自動車による小さな回遊をつくり、LRT（ライトレールトランジット＝路面電車）による大きな回遊性をつくります。大型バスの停車・駐車場を駅周辺につくり、国際化した羽田空港とのアクセス改善などが提言されています。

次いで「C」は、CLEAN（クリーン）です。安心、安全、快適な美しい街づくりをめざします。昨年から本腰を入れて始まった商店街のクリーン化を成し遂げます。特に、店からはみ出して置いてある大きな看板や道路まで広がった商品展示、道に放置された自転車、道路に設置された大型ごみ箱などを排除し、適正清潔な商業空間をつくります。また、国際化に向けた国際化案内表示の統一、コンベンション施設、シティーホテルの立地、さらにWiFiの無線LAN環境や都市サービスを提供できる街づくりをめざします。

三番目は「E」で、ENJOY（エンジョイ）です。楽しく憩えて活気ある街づくりをめざします。川崎駅周辺には、ミューザ、チネチッタ、ラゾーナなど大型の集客施設がありますが、街なか全体が、劇場のように楽しく憩

える文化的な街づくりをめざします。音楽の街（かわさきバスカー）、映像の街、スポーツの街などの仕掛けを街なかにつくっていきます。

これまでのTMOの活動をふまえて、将来の姿が見えるようにすることで、明日への一步を踏み出していけると思います。

（会長 猪熊俊夫）

◇事務局便り

かわさきTMOでは、3月17日の火曜日に4回目となるオープンカフェを実施いたします。これまでの川崎商工会議所前スペースから、場所を商店街（平和通り商店街）へ移しての試みとなります。開設時間は、午前11時30分から午後4時を予定しています。

1月に実施した来街者アンケートでも「休憩のできる場所」を川崎駅周辺に求めておられる方が多くいらっしゃいました。

街の雰囲気や回遊性がどのように変化するか、お昼休みにでもぜひ見学（もちろんご利用も）にお越しただければ幸いです。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

（事務局 六反友佳里）

◇「羊」年を迎えて



明けましておめでとうございます。

今年羊年です。羊は、祥にも通じ吉祥のめでたい動物です。家族の安泰と平和な毎日が暮らせるということの意味すると聞きました。今年が、平和で安泰であることを祈る新年です。一方で未、味と書き、暗いという意味もあると聞きました。一抹の不安を覚えます。

TMOの活動も8年を超えて9年目に入っております。その間、様々な活動がなされて、一つ一つが実となって進んでいることが、成果だと感じています。いくつもの事業としての成果を取り上げることができませんが、最も大きな成果は、川崎駅周辺地区の様々な商業者が一つになって集まり、一緒に議論し、考え、行動することだと思っております。

他の都市に何うと、商業者が互いに敬遠していたり、ひどい場合は誹いを起こしていることも少なくありません。都市の商業は、一つの店、一人の商人では成り立ちません。その意味で、かわさきTMOは、川崎駅周辺地区の商業者全体が共通のテーブルを囲むことができることに大きな意味があるので。

大型店、二つの商連、主な金融機関そしてオプザーバーとしての行政で議論される意見は、街づくりの一つの方向を示すことにつながっています。今年、より強い意味で、商業者が一体になって、商業の活性化、街づくりに取り組んでいきたいと思っております。

また、もう一つ大切なことが、「連携」です。店と店、商店街と大型店、商店街と商店街、商業と工業、川崎駅周辺地区と神奈川口地区(殿町)など様々な連携を構築することで、新しい局面をつくり、新しい可能性を見ることができると思います。今年が、是非、暗い未を乗り越えて、明るい羊の年となるように頑張ります。

(副会長 馬場義弘)

◇成熟社会の経済

我が国の人口が、2008年に1億2千800万人をピークに、以下減少していることはみなさんご存じのことです。これは、成長社会から成熟社会に移行したということとなります。戦後50年の経済成長社会、その後20年のデフレ社会、そして戦後70年を迎えて今は、なんとか成熟社会に入ろうとしています。しかし、成熟社会がどんなものなのかよくわからないため、なんとか戦後50年の経済成長社会に戻りたいという願望に向かっています。我が国の成長率を何%にするとか、インフレ率を何%にするとかの話になっていきます。新古典派経済のみなさんは、市場にお金が溢れば、インフレになり、経済が成長すると考えます。国債をじゃぶじゃぶ発行して、それを日本銀行がどんどん買い取っていきます。しかし、グローバル社会において、どんどん印刷するお金は、国内に留まらないう(留まっていればインフレになるでしょう)、海外、特に米国に流れ込んで、米国の株式に流れ込み、ニューヨークダウが上がれば、翌日は東証株価が上がります。その結果、日本の景気は良くなったとなりま

す。

ちよつと待つてください。本質は、人口減少からの成熟社会に移行していることです。これは、つまり需要が減少するということです。需要が減少すれば、供給も減少します。そうしなければ、価格はどんどん下がります。いわゆるデフレです。つまり、供給が溢れており、いかに供給を少なくして、需要に見合わせるかが問われているのです。しかも、需要は単なる量的なものではなく、大きく質的内容に転換しています。消費者のニーズが多様化して、文化的選択を付加させてきています。この消費者のニーズに対応することが、成熟社会の商売の方法となるでしょう。世界的に言えば、一人当たりGDPが2万ドルをこえると、多様化し、文化的消費になるようです。日本の一人当たりGDPは、3万7千500ドル(2014年)です。とつづくに、成熟社会に入っているのです。いつまでも、昔の経済成長社会にしがみつかないで、新しい社会に向かって、勇気をもって(過去の栄光を捨てて)踏み出す年にしたいものです。今年こそ、一步を踏み出す年となりますか。

(タウンマネージャー 笹原克)